

東京アーバンサーファーズに送る、春のファッション・プレゼンテーション。

# THE DAY

FASHION PRESENTATION

オノノノ 2016年5月号 臨時増刊 THE DAY No.16 2016年3月24日発売



VELCRO SNEAKER



TPOを考えたレザーサンダル。

Ryu Nakamura



HAT

上品だけドラフな服。



Akira Taneichi



COACH JACKET



HAND MADE SACOCHE

## スタイルのある男たちの春服。



DENIM JAKCET

L. Shin Sanbongi  
R. Jin Takayama



セルフリメイクのウエア。

色落ちデニムのセットアップ。



FLANNEL SHIRTS



CORDUROY SHORTS



Caol Uno



CAP

### 春ファッションの注目キーワード、90 PRESENTATION。

サマーニット、ガウンシャツ、スカジャン、ミリタリーウォッチ、白いスウェット、クリアサングラス、イージーパンツ、オールブラックなスニーカー、デイパックなど、この春オススメのキーワードをプレゼンテーション。

2016 SPRING ISSUE No.16

# とある部屋で

第一回美しいとなにもないということの  
ちよつとした、だけど漠然とした差。

styling | Shinya Endo photo | Kenji Nakata story | Senichiro Otsawa



インテリア左から、チェコペンダントランプ ¥38,500 (クスタスファニチャー 3460-2530)、カーペット ¥88,000 (カーペット・ハンセン・デンマーク)、ラグ ¥18,500 (ラグ・ハンセン・デンマーク)、モティーフ ¥03-3587-2784)、ブルグ・イム・デンマーク、スクラスファニチャー ¥03-3460-2530)、ペロカリエンチ 電気 ¥19,000 (ペロカリエンチ・デンマーク)、トレーテーブル ¥73,000 (カーペット・ハンセン・デンマーク)、ジャパン ¥03-5413-5421)、オランダ・アムステルダム ¥2,300 (クスタスファニチャー ¥03-3460-2530)、レダ・デンマーク ¥1,100 (リビング・モティーフ ¥03-3587-2784)、クロム・デンマーク ¥2,800 (ペロカリエンチ・デンマーク)、スクラスファニチャー ¥1,500 (ペロカリエンチ ¥03-3587-2784)、80°ドイツ目覚まし時計 ¥1,300、インダストリアル ¥28,000 (MAPELEC AMIENS)、アラバシアン スタイルス (すべてクスタスファニチャー ¥03-3460-2530)、プランケット ¥1,000 (アラバシアン ¥03-3460-2530)、グアドラ/アラバシアン/リビング・モティーフ ¥03-3587-2784)



(ラフ・シモンズ) がデンマークの手織りブランド (クワドラ) のためにデザインされた上質なブランケットを2枚重ねて、部屋の雰囲気を演出している。ほんのひとさじの彩りをしてしまうのが大人の楽しみ。



この部屋のミニチュアハウス、少しずつ割れかけていくガラス職工、\_80sの目覚まし時計、一人で過能性を備えた良いものだからこそ、日常の中で大切にしたい小物たち。



フロアに何気なく置いたフランスのランプメーカー (MAPELEC AMIENS) の壁掛けランプ。工業用に製造されたはずりとした無骨なスタイルと、ドーム状のガラスカプセルを通した美しい光が同居する。



ウィビングテープを使用した折りたたみ式のキューバチェアは、背もたれと座面に心地よいクッション性を生み出してくれる。リラックスしすぎず、でもゆったりと身体を預けられる椅子は映画と相性がいい。



自分の映画の好みは分かりすぎるほど分かってしまっている。だから、ときには真逆のものも選ぶ。そして、そんな作品の中にこそ心に響くものを見つけたりする。そんなとき、やっぱり映画が好きだと思う。

## ひ

ひとり暮らしは20年以上に上る。その間に、誰かと一緒に暮らす機会がなかったわけではないが、それは若かりし頃、男女だちとシェアハウスしたとかの話。あの時期は、全自動の麻雀卓をリビングにどかどか置いて、雀荘のように寝る間を惜しんで遊んでいた日々もあった。しまいは、家の合鍵はいくつも作られて、主が不在でも、友だちの誰かしらがジャラジャラと麻雀牌の音を響かせていた。それはそれでワイワイと楽しかったが、さすがに、若く、みんな独身だったからできたことだった。それに、僕は年齢を重ねるほどにひとりであることを好むタイプの人間になっていったから、全身を覆っているサービスピ精神なのかノリなのか、とにかくそういうものを払いのけてしまえば、シリアスだけに中途半端な悩めるオヤジが顔を出す。素敵な女性と暮らす機会なんていうのは映画の中だけの話で、現実的にそこにトライすることもなく、僕の心は霧散してく

## こ

の。それはなぜか。麻雀牌をジャラジャラとやっていた若かりし頃も、それ相応の年齢を重ねてからも、誰かと一緒に何かを楽しむやっていたもいつかは離れていくことになる。やがてやってくるさよなら。その必然的かつ少し悲壮感漂う関係性に、僕は物怖じしているのだ。それは相手のせいではない。僕の中にある、結局はひとりになろうとする気持ちの部分が大きかった。ひとり好きな映画を観て、好きな場面で一時停止してコーヒーをひとり淹れる。その繰り返し。

ト「キッズ」「グランブルー」「蒲田行進曲」「しこふんじやった」「ライフ・イズ・ビューティフル」「シ・オブ・ラブ」「スナッチ」「レスザンゼロ」「菊次郎の夏」「妹の恋人」「ドゥザライトシング」「マゲノリア」「紅の豚」「ペイブルー」……。いろいろな映画を観た。それこそ何度も同じのを観た。ときどき観ては、確認し、奮い立ち、また日々を紡いでいく。それでよかった。しかし、本音を言うと、また観るとしたら……、そう考えるだけでとてもせつなくなってしまう作品がある。いくつかあるうちの、とくにあの作品だけは、もしかしたらもう観ることができないかもしれない。大好きな映画で、人生の映画で、そして大好きな人と観た映画。この人と一緒に暮らしたらどうなんだろう。そんな風に、いつも思っていた人と観た映画。観れない理由は、かなしいとかセンチメンタルだとかではない。その映画がそのまま僕の心情風景に当てはまり、誠実に応えられなかった自らの悔恨を

浮かび上がらせるからだ。素晴らしい映画は、大切なことを教えてくれる。ことあるごとに観ては、その大切なことを胸に刻んできたつもりだった。しかしどうだ。実際の僕といたら、おそらく、とても大きな間違いを犯してかしていたに違いない。悩めるオヤジのひとり暮らしはどうにもこうにもシリアスすぎていけない。だからどうするか、モノは一切増えず、絨毯やシーツはいかにも明るい白色でまとめて正気を保とうとしているのが見え見え。そのくせ増えていくのは、映画のタイトルとノスタルジアばかり。大好きな、そしてもう観返すことが憚られるあの映画でたしか、彼は言っていた。「ノスタルジアに感傷されるな」と。そうだった、そうだった。それはとても大切なことだ。僕はまた進まなければならぬ。まだまだ進まなければならぬ。そして、素晴らしい映画と出会うように、素敵な人と出会ふことが再びできたなら、今度はそ、言おう。そう思っている。

## REISM



「とある部屋」を用意してくれたREISM (リズム) は、都心で働く20~30代の「スタイルのある」シングル向けリノベーションルームを提案するライフスタイルブランド。あたらしく暮らしに出会える。www.re-ism.jp



「Organic」と名づけられた部屋は、石タイルやモルタルむき出しの土間を床材に使用。各ポイントに使われた木製リブ材は、光による表情の変化も楽しめる。まるで海外のホテルにいるような感覚で暮らせる一室。